

機能的物質・食品の医療応用と環境影響

Medical Application and Environmental influence of Functional Materials and Foods

単位数：5単位

- 原田 守 教授：医学系研究科医科学専攻 免疫学
和田孝一郎 教授：医学系研究科医科学専攻 薬理学
川内 秀之 教授：医学系研究科医科学専攻 耳鼻咽喉科学
福田 誠司 教授：医学系研究科看護学専攻 臨床看護学
半田 真 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
田中 秀和 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
西垣内 寛 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
小俣 光司 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
中務 明 准教授：連合農学研究科生物生産科学専攻
川向 誠 教授：連合農学研究科生物資源科学専攻
鈴木 美成 准教授：連合農学研究科生物環境科学専攻

1. 科目の教育方針

医療材料の開発とそれに伴う医療技術の進歩は、医療全般の向上に大きく貢献してきた。本科目では、医学専門家の立場からは、実際に医学に応用され医療の向上に貢献している機能的物質・食品について説明する。特に、生体の恒常性の維持に必須なシステムである免疫系、内分泌系、消化器系に焦点を当て、それらの基本的な作用機序・特性などを医学的・臨床的な視点から概説する。また、理工農学専門家の立場からは、生体内において多彩な機能を発揮する物質の開発や設計、化学物質としての環境への影響について、さらに、機能的食品としての市場性などについて概説する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 生理的条件下での機能的物質の特性を理解する。
- 2) 栄養分や薬剤として有効な物質の効果を理解する。
- 3) 生体内での機能的物質の作用を説明できる。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 新規機能的物質の開発・設計・合成の手法および生体内での機能について理解する。
- 2) アレルギー疾患制御、免疫賦活などの生命現象に関与する化合物を説明できる。
機能的食品について理解する。
- 3) がん治療への機能的物質の適用を説明できる。
- 4) 栄養分輸送の媒体である水、基本的栄養素であるミネラル（微量無機元素）の生体内での機能を理解する。
- 5) 環境における機能的物質の特性と挙動、および環境への影響を理解する。
- 6) 健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能的物質の影響を理解する。
- 7) 内分泌かく乱物質の性質と生体への影響を理解する。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 上野川修一・清水俊雄・清水誠・鈴木英毅・武田英二編：機能性食品の作用と安全性百科、丸善出版、2012.
 - 2) 清水俊雄：食品バイオの制度と科学—遺伝子組換え食品からニュートリゲノミクス—、同文書院、2007.
 - 3) 那須正夫・和田啓爾：食品衛生学「食の安全」の科学、南江堂、2011.
 - 4) 中島泉・高橋利忠・吉開泰信：シンプル免疫学、南江堂、2011.
- ※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	消化器系と機能性物質 健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能性物質の影響を解説する	和田孝一郎
2	アレルギー疾患の制御に向けた機能性食品の開発と現状 アレルギー性鼻炎の病態や症状について解説すると共に症状を緩和する機能性食品の開発の現状を解説する	川内 秀之
3	機能性物質による免疫応答増強	原田 守
4	機能性物質による抗がん免疫の誘導とがん治療	原田 守
5	腸内細菌叢と免疫応答	原田 守
6	腸内細菌叢とがん治療	原田 守
7	機能性物質の細胞への作用 機能性物質の正常細胞とがん細胞への効果の相違について解説する	福田 誠司
8	がん細胞の治療抵抗性と機能性物質	福田 誠司
9	化学物質の環境への影響	田中 秀和
10	新しい統計手法をつかった機能性物質の設計	小俣 光司
11	機能性色素材料としてのフタロシアニン	半田 真
12	機能性物質の有機合成	西垣内 寛
13	農作物の機能特性と利用	中務 明
14	微生物による食品サプリメントの生産と市場性	川向 誠
15	生体におけるミネラル（微量元素の機能）	鈴木 美成